

「ぶんぶんひろば」における授業の実践  
「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」  
(短期大学 コミュニティ生活学科)

### 1、はじめに

「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業は、大学生として求められる基礎的な国語力を身に付けることを目標に、音声表現の基礎を学ぶ授業である。母国語を正確に美しく話すことは、コミュニケーション技術の中でも中心的である。相手に伝えたいことが伝わるかを試みる実践的な場として、地域の親子が集まる「ぶんぶんひろば」を選び、授業を実施した。

### 2、実践について

実践日時は、平成26年7月～11月に3回、大型絵本の読み語りを実施した。

実践方法は、学生が本番前の時間を利用しリハーサルをし、本番に臨んだ。

### 3、大型絵本のよみがたり

7月1日 13:30～13:50

はらぺこあおむし エリック・カール作  
もりひさし訳 偕成社  
ころころころ もとながさだまさ作  
福音館書店

7月8日 13:30～13:50

もりのおふろ 西村敏雄  
福音館書店  
ねずみくんのチョッキ なかえよしを作  
上野紀子絵 ポプラ社

10月30日 10:00～10:30

おおきなかぶ ロシア民話 トルストイ再話  
福音館書店  
ぞうくんのさんぽ なかのひろたか作  
福音館書店

11月27日 10:00～10:30

はらぺこあおむし エリック・カール作  
もりひさし訳 偕成社  
てぶくろ ウクライナ民話 エウゲーニー・M・  
ラチョフ絵 うちだりさ子訳 福音館書店

### 4、学生のコメント

- ・静かに聴いてくれた。
- ・真剣に聴いてくれた。
- ・読んでいる時ことばを真似したり  
反応してくれた時は嬉しかった。
- ・可愛かった。励みになった。
- ・少し緊張したけれど子どもが好きだからうれしかった。

### 5 まとめ

学生は、幼児に生き生きとした言葉で直接語りかけることができ、率直な反応が返ってくるので、適切な読みや表現ができたか否かその場でわかる。

幼児が絵本を見て感動の声を発してくれるなら、その本読みは成功と言える。  
今後の課題は、聴く人が作品の中にのめり込むほどの興味を示してくれるように、本選びから語りまで丁寧に関わること。  
そうすればお互い本の世界の言葉の力を強く感じる事になる。

(文責：短期大学 非常勤講師 兼光 英子)